

南部保育所の民営化について

楠井 常夫(新政会)

質問 本年7月30日に南部保育所の民営化を白紙撤回する旨の発表があった。白紙撤回する過程で、どういう方たちと話し合い、どういう検討をしてきたのか。また、白紙撤回に至った最大の理由は何だったのか。

答弁…市長

この度の南部保育所の民営化については、これまでに開催した保護者説明会の経過や、6月29日に開催した私と保護者役員会との意見交換会における議論、さらには、教育委員会における学校再編については、保護者・地域の理解が不可欠であるとの前提で進められてきた経緯等を踏まえ、まずは保護者の率直な声に耳を傾けることが、行政として重要であると考えています。

そして、単に保育所だけではなく、就学前児童全体の子育て支援をどうしていくのかといった、より広い視点での検討も必要であることから、これらの諸事情を勘案し、一度原点に立ち返り、白紙に戻すことに決定しました。

今後は、行財政改革の視点はもちろん、本市における子育て支援をどう進めていくのか、そのために公立保育所が担うべき役割は何かなど、再度、いろいろな角度からの検討を行うこととしており、幼稚園を所管する教育委員会とも連携を密にし、合同による勉強会等も随時開催し、情報収集に努め、就学前児童の子育て支援施策等についての調査・研究を進めていきたいと考えています。

子供議会について

楠井 常夫(新政会)

質問 平成19年9月定例会で、子供議会の開催について質問したが、その際の答弁では、各方面に図って検討するということであった。

そこで、現在の検討状況と開催の見通しについて伺う。また、子供議会にこだわらず、他の形で開催する考えはあるのか。

答弁…教育長

子供議会の開催については、子供たちに政治や地方自治への関心を持たせることができ、また、自分たちの暮らしに関する身近な問題を真剣に考えることによって、まちづくりの視点が養われ、市政参加の意義が理解できるといった教育上の効果が期待できます。

これまでは、教育課程上、他教科への授業時間の影響や、他の多くの学校行事との日程調整、さらに教員の準備時間の確保等が課題となっており、現には至っていません。そのため、学校運営や教員の実務に負担をかけずに実施する方法を考えた場合、各学校から児童生徒の代表を選抜するのではなく、学校単位で捉えた方が、より多くの児童生徒が参加でき、日程調整もしやすいのではないかと考えています。

具体的には、市長が就任後に実施しております出前ミーティングの一環として、学校に出向き、模擬議会の形で実施できないか、今後、市長部局とも連携し、また、先般開催された校園長会でも、私からそのような提案をさせていただいています。今後とも、校長会と協議していきたいと考えています。

学校図書の充実について

大藤 匡文(同志会)

質問 学校図書の充実、市長の選挙公約でもある。予算措置を含め、市長はどのように考えているのか。

答弁…市長

私自身の考え方として、教育においては、読み書きなどの基礎的学力をしっかりと身につけることが重要だと思っています。

特に読書に関しては、幼児期からの読み聞かせに始まり、小中学校での読書活動を充実させることによつて、考える習慣が身につく、豊かな感性や情操を養うことができ、そして、思いやりの心を育む上でも、非常に大きな効果を生み出すものだと思っています。

読書には、様々な益があります。まず、読解力がつく。文章を読んでその意味を理解し、解釈することができるようになる。読書することにより、人や物事を深く理解することができ、感覚が繊細になり、表現力が豊かになります。

学校図書の現状については、学級数に応じて整備すべき蔵書数を示した国の図書標準に達していない学校については、今後、計画的に不足冊数を補えるように配慮したいと考えています。なお、この量的な課題もさることながら、私は、その蔵書の内容についても、十分に吟味していく必要があるのではないかと考えています。

このことについては、教育委員会に実情を聞きながら、質・量ともに充実した学校図書になるよう、今後、重要課題の1つとして取り組んでいきたいと思っています。